



遠藤れい子ひまわりレポート

○遠藤れい子事務所 〒940-0052 長岡市神田町3丁目1-3 ☎ 0258-32-1741 fax 0258-32-6443
○県議会執務室 〒950-0965 新潟市中央区新光町4-1 県議会内 ☎025-280-5475

県の地域医療構想、何が問題？

「見附の医療・介護を考えるシンポジウム」で遠藤れい子県議が提起



8月20日、見附市で行われたシンポジウム。遠藤れい子県議は、新潟県がすすめている病院の再編・統合、病床削減で具体的にはどうなるのかを、

隣の「県央医療圏」を例示して、問題提起しました。

県央の状況とは

新潟県は、「人口減少と高齢化で急性期医療のニーズが大幅に減少する。」「医師の働き方改革に対応するため医師を大病院に集約、手術と救急は大病院で。それ以外は、後方病院として肺炎などに対応する病院」としています。

県央では、県央基幹病院が来年度開院するのに伴い、救急車のほとんどを基幹病院が受け入れます。現在、24時間救急受け入れを行っている県立加茂・吉田、三条済生会は「平日日中、かかりつけ患者の急変に対応」だけとなり、手術は県

央基幹病院のみ。加茂、吉田、三条済生会で手術は行わず、常勤医は内科系医師のみとなります。病床数は、県央全体で現在の稼働病床数より1割以上（150床以上）減少します。

このような再編で何が問題か

遠藤県議は医療の専門家として、以下の点を厳しく指摘、県の計画を見直すべく提起しました。

① 県央基幹病院に救急、手術、感染症が集中する。病院は超多忙化し、パンク状態になり、職員は疲弊する。

② 圏域内に複数の救急受け入れ病院が必要ではないか。一極集中では災害時などリスクがある。一か所集中では住民から病院が遠くなる。

③ 加茂、吉田、三条済生会にも外科系医師が必要。

④ 県央基幹病院の利用率を85%、それ以外の病院を90%で推計し、必要な病床

数を決めているが、余裕がなさすぎる。新型コロナ感染症の教訓を踏まえ、余裕のある病床と医師・看護師配置が必要である。

これらを踏まえ、見附市立病院は地域で求められている役割を！

中越医療圏域に入っている「見附市立病院」は、圏域での話し合いで役割を決めていくことになる。「見附市で求められている役割」をしっかりと議論して、市民の声が届けられる病院として

床上・床下浸水の被害深刻、支援強化を

豪雨被害の村上市・関川村を視察（8月30日）



床上浸水の被害状況をお聞きする稲葉市議と遠藤県議。

守っていただきたいと強調しました



8/20 遠藤県議の話を聞く参加者

遠藤れい子県議事務所と長岡市議団よりお願い
市民アンケートにご協力お願いします

国葬に反対です

8月30日、遠藤れい子県議、平あや子前新潟市議は稲葉久美子村上市議の案内で、豪雨被害の村上市と関川村を訪問。被災された皆様から被災状況と生活再建のご努力、行政への要望をお聞きしました。皆様の声をしっかりと届け、生活再建支援に頑張ります。